医師会発

暮らしに役立つ 西広島 医療情報 ㊺

認知症の早期発見には家族の絆が大切です

認知症は早期発見、早期治療が大切です！

その理由は、(1)一部ですが治療により完全に治る認知症があること（慢性硬膜下血腫、特発性正常圧水頭症など）(2)アルツハイマー病、及びその類縁疾患には、認知症を根本的に治すものではないものの、症状をある一定期間改善させたり、進行を抑制したりする薬（ドネペジル）があること、しかも早期であればその改善有効率はより高いこと。(3)環境や介護の仕方を工夫することにより生活の質を高めることが出来、本人や家族にも余裕が生まれることが挙げられます。

早期に家族や隣人の認知症に気づくコツはあるのでしょうか？

はい、あるのです。それは、物忘れを年のせいにしないことです。たとえ何歳になっても正常老化ならば生活に支障がでるほどの物忘れは出現しないことを銘記することです。アルツハイマー病の初期では、置き忘れやしまい忘れ、約束事を忘れるなどの物忘れ症状が以前よりも目立ってきます。怒りっぽい、元気がなくなった、意欲が乏しく、以前のような活動性が低下した（外出しなくなった、人との付き合いを避ける、家でTVばかり見ている、以前からの作業や趣味をしなくなった等）なども初期にはよく見られます。これらの症状はいずれも大きな特徴に欠ける微妙な変化であり、ともすれば見逃しやすいものですが、二年前、三年前の状態と比較して判断することが大切です。

認知症への気づきの早さは日頃の家族の絆の強さ（家族力）と大いに関係するのです！

私は、家族が「昔はこんな人では無かった」、「なんか様子が以前とは違う」、「近頃は前と違って怒りっぽくなった」などの変化を訴える場合は既に認知症の可能性が高いのではと考えています。あくまでも私の臨床経験ですが、患者の方の生活を長く見てきた家族が「なんか変だ」との印象を抱き一緒に来院された方の10人中9人は認知症でした（しかもその大半は初期では無く既に中期以降の認知症でした）。

（廿日市市佐伯地区医師会　斉藤脳外科クリニック　斉藤裕次）

※休日受付医院は●面「今週のお知らせ」コーナーに掲載。